

～医師紹介～

みなさん、こんにちは!!

あた

にしくまもと病院副院長の箕田と申します。

秋の気配が感じられる良い季節になりましたね。

今日は、みなさんに私の自己紹介をします。

私は、昭和55年に熊本大学医学部を卒業して、熊本大学医学部第一内科（神経内科、呼吸器内科、循環器科、消化器科）へ入局しました。その後、熊本大学大学院を修了し、1987～89年には米国ニューヨークのコロンビア大学神経内科へ留学をしました。その後、熊本大学第一内科に復帰し、平成7年神経内科創設で神経内科へ移籍し、講師として1995年3月まで勤務しました。同年4月から、国立病院機構熊本再春荘病院へ勤務し、神経内科

部長として筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病/症候群、脊髄小脳変性症、筋ジストロフィー等の神経・筋難病の治療・ケア、ネットワーク作りを中心に、脳血管障害、意識障害、頭痛、めまい、てんかん、認知症等の神経疾患を多く経験してきました。にしくまもと病院には、2008年7月から副院長に就任し、現在に至っています。私がにしくまもと病院を選んだ一つの理由としまして、

林院長が提唱しておられる、にしくまもと病院を核として地域住民が安心して生活できるような街づくりをめざして医療・介護・福祉を提供する『熊本ホスピタウン』の構想に共感したことです。2012年には新病院が完成し、ハード面も充実しますので、『熊本ホスピタウン』実現に向けて少しでも貢献できればと思います。仕事の話ばかりではなく、私のプライベートの話も少しお話します。私の特技は、剣道です。昨年から、学生時代にやっていた剣道を約30年ぶりに再開しました。最近は、剣道の仲間たちと稽古をしたり、飲み会をして楽しんでいます。稽古後のビールは最高ですよ!!

箕田修治先生

日本神経学会専門医
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医

新幹線車両基地見学会で救護をしました

8月21日・22日

8月21日・22日の二日間、富合町の熊本総合車両基地が一般公開されました。参加者は、一般公募で当選した方のみ入場できることになりました。午前10時からの開幕式典には地元住民や自治体の方が参加され、テープカットが行われました。

夏休み期間中であったためか、家族連れや子供たちも多くみられました。実際に新幹線の中に入ることができ、子供たちや鉄道ファンが楽しげに記念撮影をしていました。



36度の猛暑とあって、炎天下の中、徒歩で歩きまわるために熱中症が心配され、会場に救護室が設置されました。その救護室を担当したのがにしくまもと病院でした。JR九州様から救護室担当の依頼を受け、微力ながらもこのにしくまもと病院の医師と看護師が協力をさせていただきました。幸いにも救急搬送などもなく、無事に終えることができました。私たち職員も、このような業務を引き受けることができ、光栄に思います。今後もできる限り協力をさせていただきたいと思います。



ご利用者の声

当院では、院内数箇所にご意見箱を設置し、ご利用者の皆様のご意見・ご要望を随時承っております。



1 家族が入院しており、お世話になっております。来るたび感じることは、看護師の応対が非常に良く感じがいいなあ…と思っています。

このようなお言葉をいただき、誠にありがとうございます。職員一同、励みになります。

2 他の病院に行かなくてもいいように、MRIをこの病院にも置いてください。

ご不自由をおかけして申し訳ございません。みなさまのご希望に添えますように導入を検討しております。もうしばらくご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

3 看護師のみなさん、今までありがとうございました。初めての手術ですごく怖かったけど、「大丈夫だよ、強かつたよ」と声をかけてもらったので、がんばろうと勇気がでました。これからもお仕事がんばってください。

これはお子様からいただいたお手紙でした。このようなお手紙をいただき、私たちも大変うれしく思います。ありがとうございます。

貴重なご意見、ありがとうございました。

今後も当院では、出来る限り皆さまのご要望に沿うような病院となるよう努力していきたいと考えております。お気軽に皆様のご意見をお寄せ下さい。



8月31日

泌尿器科専門医：大谷医師が講演をしました！

8月31日(火)、泌尿器科専門医である大谷医師が地域住民の方に講演をしました。テーマは、『生活習慣病予防、CKD(慢性腎臓病)について』でした。



大谷医師は、腎臓とは何か？腎臓の働き・尿を作る仕組みなど、初步からわかりやすく説明しました。講演を聞きに来られた方は、メモを取りながら熱心に大谷医師の講演に耳を傾けていました。中には、腎臓病にとても詳しい方もおられ、大谷医師が質問を投げかけると、スラスラとお答えになる方もいらっしゃいました。



大谷医師は、慢性腎臓病にならないための予防対策を、Q&Aの形で説明。たばこは？お酒は？食事療法は？など、身近な生活習慣を事例に挙げての説明で、それは患者さんの視点であり、予備軍の私たちの視点に立ったものもあり、とてもわかりやすい講演でした。

